

# WinServ

## User Guide

## Contents

Introduction .....	4
システム要件	
移行先 .....	5
サポートされているオペレーティングシステム.....	
ノート.....	5
移行の準備 .....	6
始める前に.....	6
ウイルス対策/インターネットセキュリティソフトウェア .....	6
ドメインに関する考慮事項.....	6
ソフトウェアの実行とアクティブ化.....	7
シナリオ1：あるサーバから別のサーバへの移行- ネットワーク経由.....	9
シナリオ2：中間ストレージロケーションを介した移行-直接接続なし .....	9
シナリオ3：物理マシンから仮想マシン（P2V）への転送 .....	9
シナリオ4：壊れたサーバの救出/別のハードドライブからの移行.....	9
追加オプション .....	10
転送の実行.....	11
シナリオ1：ネットワークを介した1つのサーバから別のサーバへの移行.....	11
シナリオ2：直接接続せずに転送する.....	16
シナリオ3：壊れたサーバの救出/別のハードドライブからの移行.....	21
追加オプション.....	23
付録A.....	36
トラブルシューティングガイド.....	38
メッセージコード .....	38
移行後.....	43

## Introduction

WinServは、複数の移行シナリオをサポートしています。

1. あるサーバから別のサーバへの移行：ネットワーク経由または直接ネットワークケーブル経由
2. 壊れたサーバの救済/別のハードドライブからの移行：アプリケーション、設定、ファイルを移行元サーバのハードドライブから直接転送する
3. 中間の保管場所を介した転送-直接接続なし：マシンをコンテナファイルにキャプチャし、コンテナファイルを別のマシンに展開する-両方のマシンが同時に使用できない場合、または代わりに別の保管場所を使用する場合に使用しますネットワーク転送の
4. 物理サーバから仮想サーバ (P2V) への転送- Hyper-V、VMWare、クラウド、VDI環境、さらにはクロスクラウド転送も含まれます。

各シナリオで、WinServを使用すると、アプリケーション、設定、パーソナライズ、ドキュメント、およびデータファイルを含むユーザーワークスペース全体を転送できます。WinServはネイティブ移行を実行し、上記のすべてをターゲット環境に直接埋め込みます。

各シナリオは、選択的な転送、アプリケーションなしの転送、または暗号化されたコンテナを使用した転送を実行するように変更できます。

**Windows OS、Windows OSサーバの役割、セキュリティスイート/アンチウイルス、および専用ドライバーは、ソースシステムから転送されません。**

## システム要件

## 移行先

	Minimum	Recommended
<b>Processor</b>	Intel Pentium 4 or AMD Athlon XP CPU	Intel or AMD Dual core CPU
<b>Memory</b>	1GB RAM	2GB RAM or higher
<b>Hard drive free space</b>	1GB and, in addition, enough space for transferred applications and files	20GB and, in addition, enough space for transferred applications and files
<b>Network Adapter</b>	10/100 network adapter / wireless	Gigabit network adapter

サポートされているオペレーティングシステム

Operating system	Source (Old)	Target (New)
<b>Windows 2003</b>	Yes	Yes
<b>Windows 2008</b>	Yes	Yes
<b>Windows 2012</b>	Yes	Yes
<b>Windows 2016</b>	Yes	Yes
<b>Windows 2019</b>	Yes	Yes

上記のすべてのオプションで、32ビットから64ビットへの転送もサポートされています。

**Notes**

- WinServWiソースシステムとターゲットシステムの両方で管理者権限で実行する必要があります。
- WindowsOSがセーフモードで実行されている場合、WinServは実行できません。
- Windowsオペレーティングシステムが誤動作している場合、またはWindowsサブコンポーネントのいずれかが破損している場合、移行が正しく機能しない可能性があります。
- オンライン製品アクティベーションを実行するには、インターネット接続が必要です。

## 移行の準備

### 始める前に

転送プロセスを開始する前に、次のチェックリストに従ってシステムを準備することを強くお勧めします。そうすることで、移行が成功し、システムの問題の影響を受けないことが保証されます。

- 1.すべてのセキュリティソフトウェア、ウイルス対策、またはファイアウォールをアンインストール/無効にします。
- 2.実行中のすべてのアプリケーションを閉じます。
- 3.特に古いマシンの場合は、標準のWindowsCHKDSKユーティリティを実行してファイルシステムの整合性を確認することをお勧めします。詳細な手順については、付録A、CHKDSKを参照してください。
- 4.使用しているハードドライブの1つ（SOURCEまたはTARGET）がFAT32ファイルシステムでフォーマットされている場合は、移行を実行する前にそれらをNTFSに変換する必要があります。詳細な手順については、付録A「FAT32ドライブからNTFSファイルシステムへの変換」を参照してください。
- 5.各ハードドライブに少なくとも1GBの空き容量があることを確認します。

### ウイルス対策/インターネットセキュリティソフトウェア

ウイルス対策/インターネットセキュリティソフトウェア製品の一部のリリースには、適切な識別メカニズムがなく、WinServを脅威と誤って見なす可能性があります。WinServコードは、ポリシーに従って、公式の世界的な認証局によってデジタル署名されています。それでも、一部のウイルス対策/インターネットセキュリティソフトウェアは、ユーザーに確認せずに、WinServが正常に実行されないようにする場合があります。移行を実行する前に、ウイルス対策/インターネットセキュリティソフトウェアをアンインストールすることをお勧めします。または、許可されたソフトウェアの「ホワイトリスト」にWinServを追加する方法については、ウイルス対策/インターネットセキュリティソフトウェアのベンダーにお問い合わせください。

### ドメインに関する考慮事項

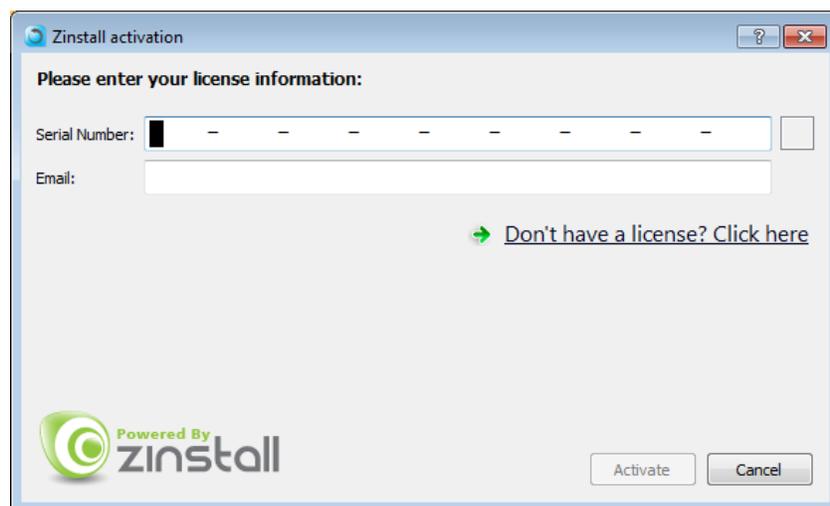
ドメイン環境で2つのサーバー間を移行する場合は、移行前にターゲットマシンをドメインに追加し、両方のマシンに同じユーザーとしてログインする必要があります。

さらに、移行プロセス中、転送されたプロファイルを認証できるようにするために、ターゲットサーバーはドメインネットワーク上にある必要があります。

## ソフトウェアの実行とアクティブ化

移行を実行する最初のステップは、サーバ上でソフトウェアを実行することです。重要：2つのサーバがある場合（古いサーバと新しいサーバに移行する場合）、移行元サーバと移行先サーバの両方でソフトウェアを実行する必要があります。関連する各サーバでこのガイドに従ってください。

1. インターネット接続が利用可能な場合は、サーバをインターネットに接続して、製品のアクティベーションを簡素化します。
2. WinServを移行元サーバに配置します。
3. ソフトウェアを実行します。
4. 製品のアクティベーションを実行します。

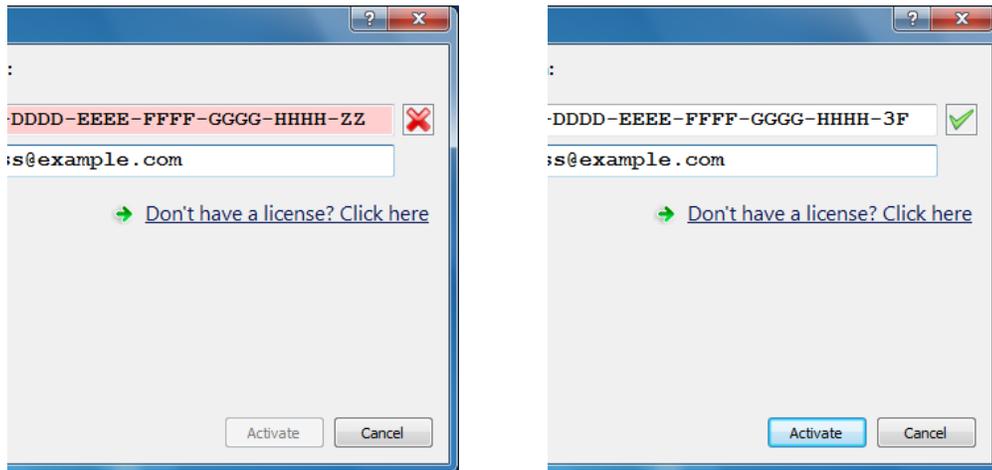


正しい電子メールアドレスを提供することは非常に重要です。そうしないと、サポートを受けるのが困難になる可能性があります。サポートシステムは、ライセンスされたユーザーを電子メールアドレスで認識します。

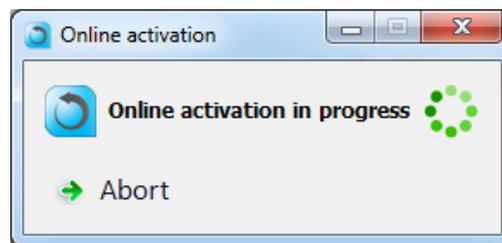
5. シリアル番号とメールアドレスを入力します。

a. シリアル番号の右側に赤い「X」が表示されている場合は、シリアル番号が誤って入力されていないことを意味します。すべての文字を再確認し、タイプミスを修正してください。

b. シリアル番号の右側に緑色のチェックマークが表示されている場合は、番号が正しく入力されていることを意味します。



6. 「アクティベート」ボタンを押します。「アクティベーションが進行中です」というメッセージが表示されます。

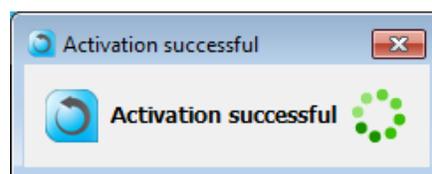


a. サーバがインターネットに接続されている場合、アクティベーションが実行されます。

インターネットを介して自動的に。

b. サーバがインターネットに接続できない場合は、他のインターネット接続を使用してアクティベーションを実行できます（「オフラインアクティベーション」）。この場合、詳細な手順については、付録A「Webアクティベーション」を参照してください。

7. アクティベーションが成功すると、次のメッセージが表示されます。  
**※画像のUIは英語になっていますが最新版では日本語で標示されます。**



## 移行するシナリオはどのパターンでしょうか？

移行プロセスを開始する前に、以下のシナリオのどれが状況と目標に最も一致するかを確認してください。次に、適切なガイドに従って移行を完了します。

### シナリオ1：あるサーバから別のサーバへの移行 - ネットワーク経由

2つのサーバ（移行元と移行先）間の転送の場合、両方のサーバが完全に機能し、同じネットワークに接続されている場合。

重要：この転送は、同じネットワーク、同じルーターに接続されているサーバ、またはネットワークケーブルで直接実行されます。サーバが相互に正しく接続できない場合は、シナリオ1（移行元サーバのハードドライブを移行先サーバに直接接続して転送する）を参照してください。

詳細なステップバイステップガイドについては、11ページを参照してください。

### シナリオ2：中間ストレージロケーションを介した移行-直接接続なし

このシナリオでは、転送を直接実行するのではなく、2つの別々のフェーズで実行できます。最初に移行元サーバをコンテナファイルにキャプチャし、ネットワークストレージ、外付けハードドライブ、またはその他のストレージメディアに保存してから、キャプチャしたコンテナをデプロイします。これにより、移行元サーバと移行先サーバが同時に使用できない場合、フェーズ2を遅延させる必要がある場合、またはネットワークストレージまたは外部物理ストレージが転送の望ましい方法である場合でも、転送を実行できます。詳細なステップバイステップガイドについては、16ページを参照してください。

### シナリオ3：物理マシンから仮想マシン（P2V）への転送

移行先は物理サーバではなく、仮想マシンである可能性があります。これには、Hyper-V、VMWare、クラウド、およびVDI環境への移行が含まれます。このような移行を実行するには、接続タイプに応じて、シナリオ1または2の手順を使用します。

### シナリオ4：壊れたサーバの救出/別のハードドライブからの移行

古いサーバが壊れている、電源をオンにできない、またはWindows OSが誤動作している（VSS障害、WMIの問題など）場合でも、

ソースサーバのハードドライブから直接転送を実行できます。ハードドライブは、内部または外部のいずれかに接続できます。

（USBアダプターまたはハードドライブエンクロージャーを使用）。

詳細なステップバイステップガイドについては、21ページを参照してください。

## Additional Options

上記の各シナリオは、以下の追加オプションを使用して変更できます。

### SSD Mode (split transfer between a small SSD and a large HDD)

ターゲットコンピューターにOSとアプリケーション用の小さくて速いSSDと、データ用の大きくて遅いHDDがある場合、転送ではそれを考慮に入れる必要があります。アプリケーション構成をSSDに転送し、データの大部分をHDDに転送します。SSDモードは、ガイドの指示に従って、適切な「ターゲットの選択」画面で有効になります。

### Transferring profiles, settings and data – but NOT applications

すべてのシナリオで、この製品では、アプリケーションを転送せずに、プロファイル、設定、およびデータのみを転送できます。このような転送の例は、アプリケーションがすでにインストールされているが、データと設定が欠落している、企業標準の「ゴールデンイメージ」がすでにあるマシンに移行が実行される場合です。このオプションは、ターゲットコンピューターのメインシナリオ選択画面のスイッチで切り替えられます。すべてのシナリオで利用できます。

### Selective Migration

上記のすべてのシナリオで、製品は選択的な移行を実行できます。つまり、アプリケーション、設定、ファイルのすべてではなく、ソースシステムの選択された部分のみを転送します。

### Command Line Execution

WinServは、手動でGUIを選択する代わりに、コマンドラインインターフェイスから実行することもできます。

これにより、移行プロセスの自動化が可能になるだけでなく、転送してはならないファイル、フォルダー、およびアプリケーションをきめ細かく除外できます。

### Post-migration adjustment rules

移行自体の構成に加えて、移行後の調整を定義できます。これらは、選択したファイルの文字列置換に関する特別なルールです。たとえば、古いサーバ名を新しいサーバ名に変更したり、古いサーバのIPアドレスを新しいIPアドレスに変更したりして、構成ファイルを調整するルールを設定できます。

## 転送の実行

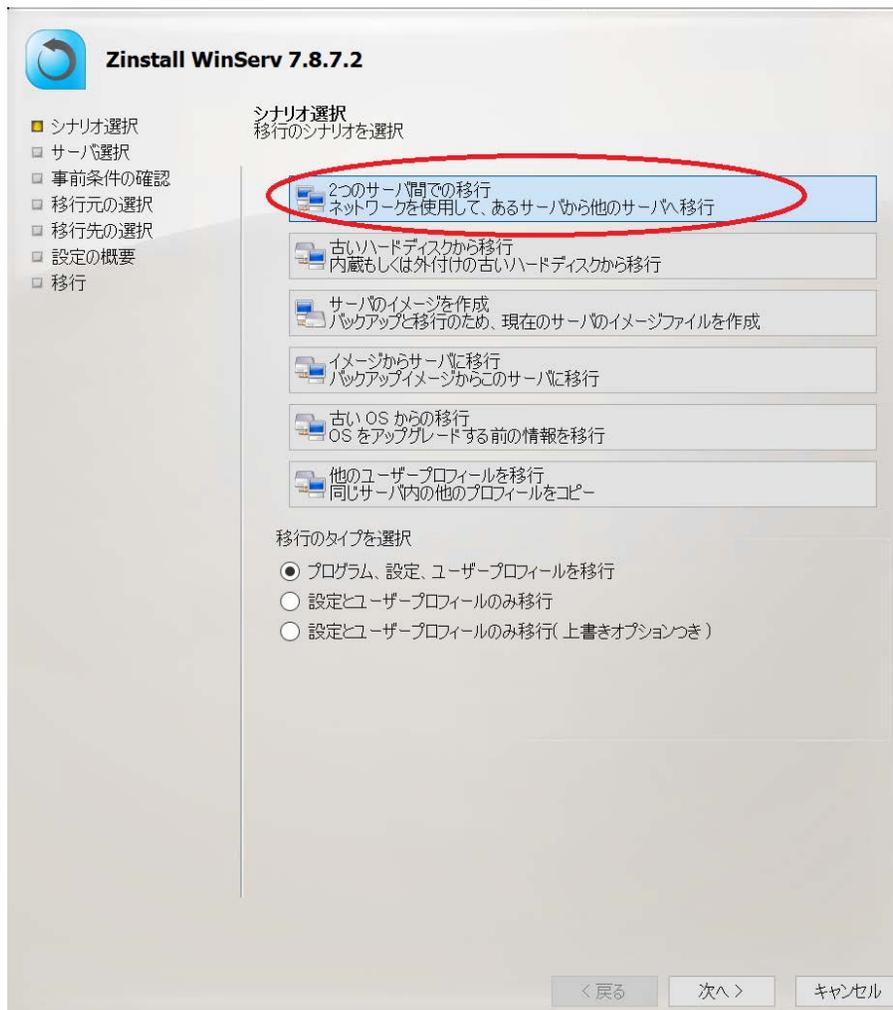
ドメイン環境での移行に関する重要な注意事項：

サーバがドメイン内にある場合は、移行を開始する前に、必ずターゲットマシンをドメインに追加してください。2台のマシン間を移動する場合は、必ず両方のマシンで同じドメインユーザーとしてログインしてください。転送中に、ターゲットマシンがドメインに接続されていることを確認します（つまり、ネットワークから切断されていないことを確認します）。

### シナリオ1：ネットワークを介した1つのサーバーから別のサーバーへの移行

1. 移行元サーバーでソフトウェアを実行してアクティブ化します。最初にメインの移行画面が表示されます。

最初のオプション「2つのサーバ間での移行」を選択し、「次へ」をクリックします。

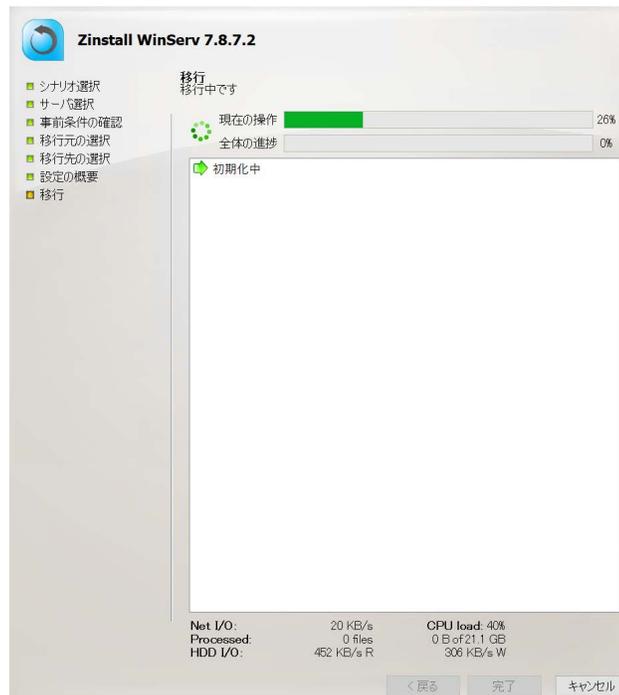


2. 次の画面で、「これは移行元のサーバです」を選択します。



3. 「前提条件の確認」画面が表示されます。すべての前提条件が正常に確認されたら、[次へ]をクリックして続行します。それ以外の場合は、見つかった問題に対処し、プロセスを再開します。

4. 次の画面が表示されます。これは、移行元サーバが転送を開始準備を意味します。移行が完了するまで、ソフトウェアを終了しないでください。ここで、ガイドを続行し、移行先サーバでソフトウェアを実行する必要があります。



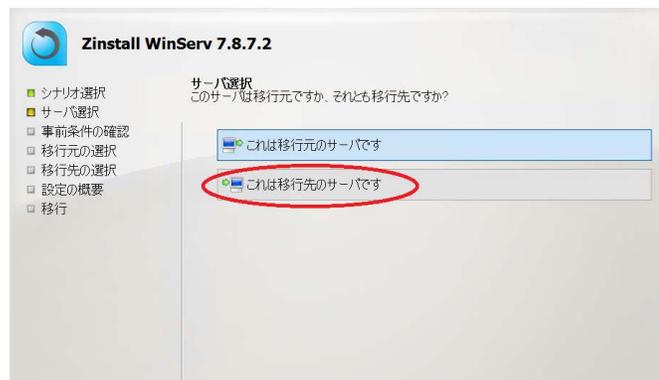
## On the TARGET server

1. 移行先サーバでソフトウェアを実行してアクティブ化します。最初にメインの移行画面が表示されます。

最初のオプション「2つのサーバ間での移行」を選択し、「次へ」をクリックします。



2.次に「これは移行元のサーバです」を選択します。

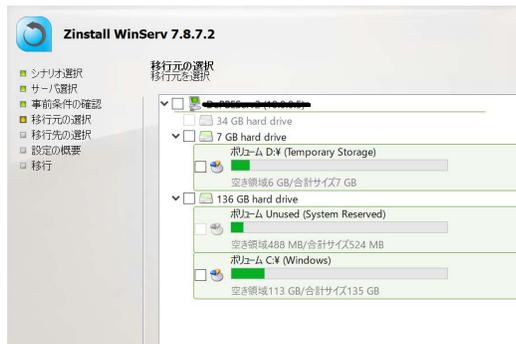


3. 「前提条件の確認」画面が表示されます。すべての前提条件が正常に確認されたら、[次へ]をクリックして続行します。それ以外の場合は、見つかった問題に対処し、プロセスを再開します。

4. この時点で、新しいサーバは古いサーバを検索します。

サーバが同じネットワークサブネット上にある（または直接、接続されている）場合、サーバは自動的に繋がります。

移行元サーバにチェックマークが表示され、移行先サーバにソースが表示されます。



### 手動ソース選択：

サーバが同じネットワークセグメントに配置されていない場合、自動検出は古いサーバを検出しません。この場合、送信元サーバのIPアドレスを手動で指定して、強制的に検出することができます。

これを行うには、画面の下部の2番目の位置に切り替えます。「ソースマシンのIPアドレスを手動で入力してください」。

移行元サーバのIPアドレスを入力し、「更新」をクリックします。

移行元サーバが新しいサーバからアクセス可能である限り、移行元として検出され、上に表示されます。



5. サーバの選択が完了したら、[次へ]をクリックして続行します。

6. 「SSDモード」オプション画面が表示されます。ハイブリッドSSDストレージのサポートが必要な場合は、詳細についてシナリオ5：SSDモードを参照してください。それ以外の場合は、[次へ]をクリックして続行します。

7. 「構成の概要」画面が表示されます。概要を確認し、「実行」ボタンを押して、準備ができたなら移行を開始します。

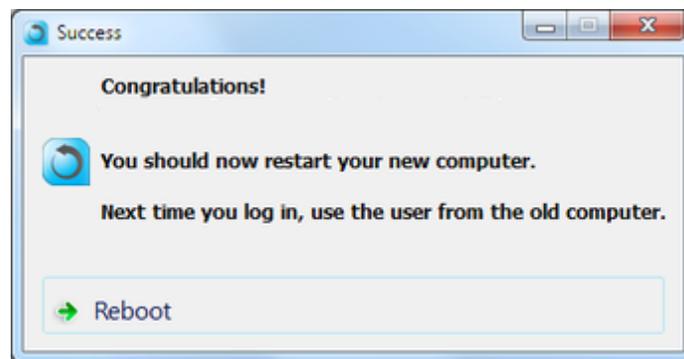
移行プロセス中に、WinServは移行段階がどのように進行するかを示します。これらの段階では、ユーザーの操作は必要ありません。

**重要：**プログレスバーが長時間進まなかったり、サーバーのディスプレイが黒くなったりしても、サーバーがスタックしているわけではありません。転送プロセス全体に非常に長い時間がかかる場合があります。これは、ネットワーク接続速度のハードドライブの状態と不良セクタ、ハードドライブの速度、全体的なパフォーマンスなど、複数の要因によって異なります。

したがって、進行状況バーに何時間も進行状況が表示されない場合があります。これは正常です。

しばらくして移行先サーバの画面が真っ暗になった場合は、マウスを動かしてオンに戻し、進行状況を確認してください。

辛抱強く、移行プロセス全体が完了するのを待ちます。



新しいサーバに上記のメッセージが表示されたら、移行は完了です。[キャンセル]ボタンを押すと、移行元サーバのソフトウェアも安全に終了できます。

## シナリオ2：直接接続せずに転送する

次の2段階で移行を実行するために使用します。

- まず、ソースマシンをコンテナファイルにキャプチャし、コンテナをネットワークストレージ、外付けハードドライブ、またはその他の保存場所に保存します。
- 次に、キャプチャされたコンテナからターゲットサーバーにデプロイします。

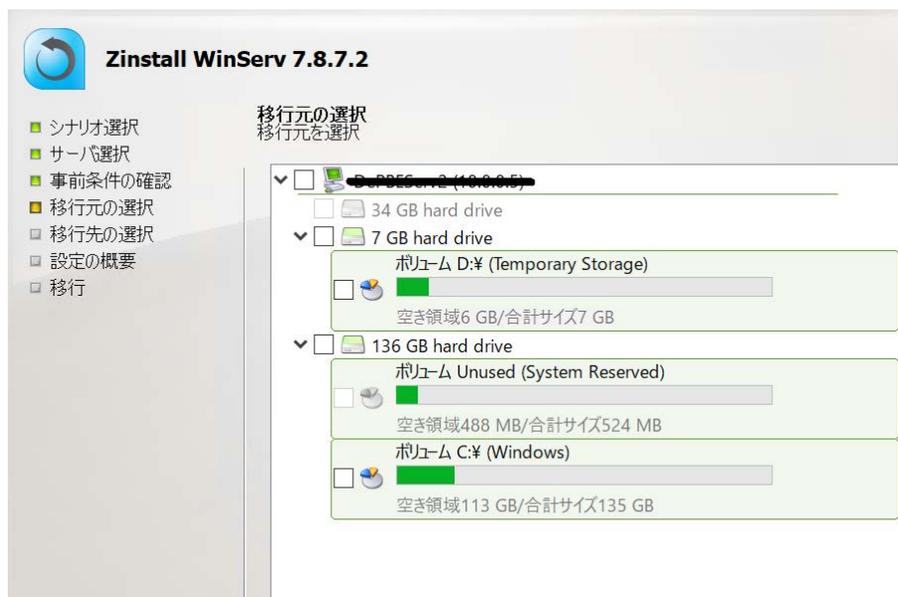
これにより、両方のマシンが同時に使用できない場合や、ネットワークストレージまたは外部物理ストレージが望ましい転送方法である場合でも、転送を実行できます。手順については、次のページを参照してください。

### On the SOURCE server

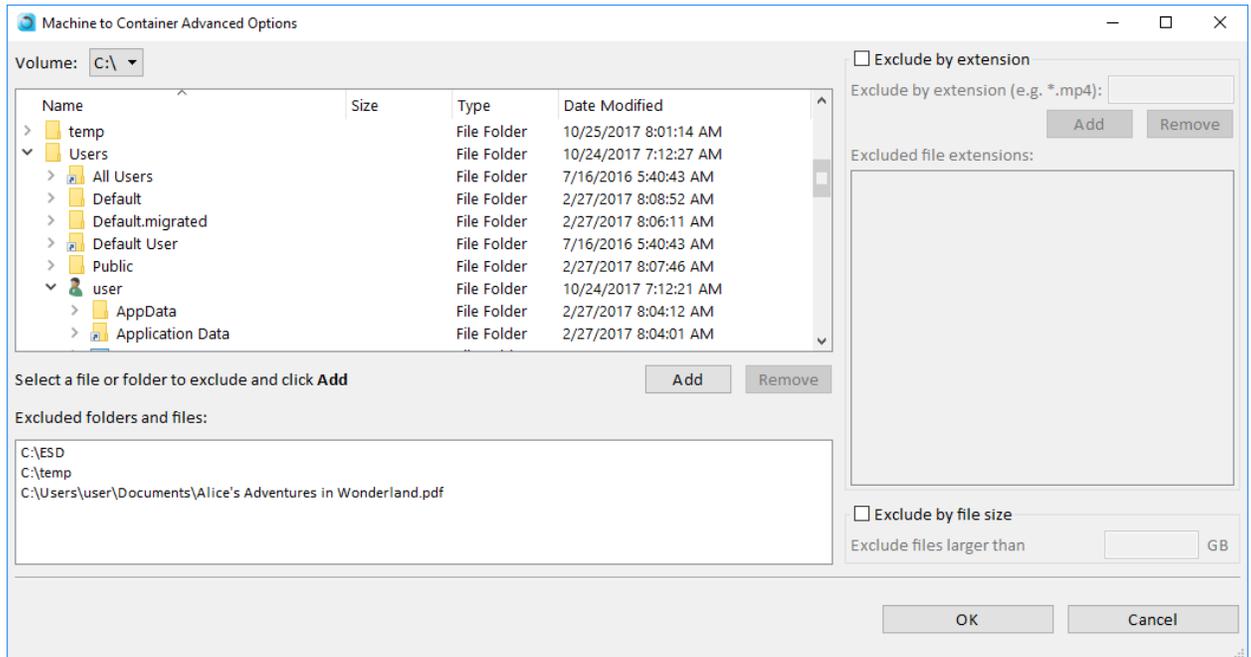
1. 移行元サーバでソフトウェアを実行してアクティブ化します。最初にメインの移行画面が表示されます。
- 3 番目のオプション「サーバのイメージを作成」を選択し、「次へ」をクリックします。



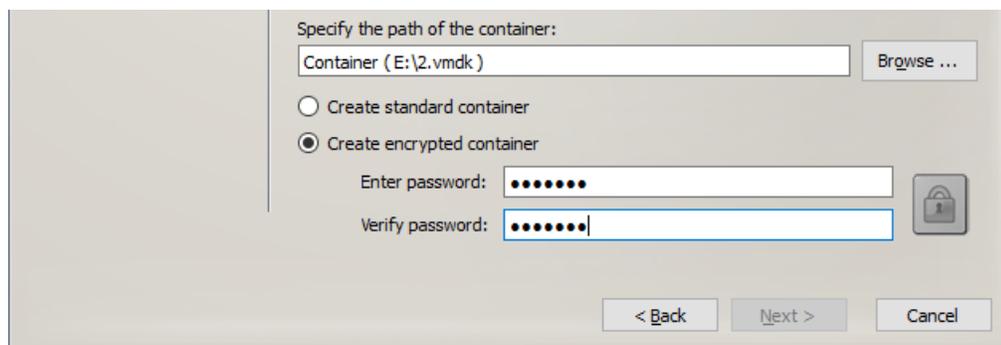
2. 「前提条件の確認」画面が表示されます。すべての前提条件が正常に確認されたら、[次へ]をクリックして続行します。それ以外の場合は、見つかった問題に対処し、プロセスを再開します。
3. 次の画面で、コンテナにキャプチャするボリュームを選択します。



4. ファイルまたはフォルダーの一部をコンテナから除外したい場合は、次の方法で実行できます。「高度」をクリックします。コンテナから除外する（キャプチャされない）ファイルとフォルダを選択するか、特定のファイル拡張子またはファイルサイズの制限に対して同じことを行うことができます。すべてをキャプチャしたいだけの場合は、[高度]メニューに移動する必要はありません。



5. 次の画面で、[参照]をクリックして、コンテナファイルを作成する場所を選択します。  
 6. 場所を選択したら、オプションで、下部のトグルを[暗号化されたコンテナの作成]に切り替えてパスワードを入力することにより、コンテナの暗号化を選択することもできます。



7. [次へ]をクリックして、[構成の概要]画面に移動します。要約を確認し、「実行」ボタンを押して、準備ができたならコンテナ作成プロセスを開始します。

## On the TARGET server

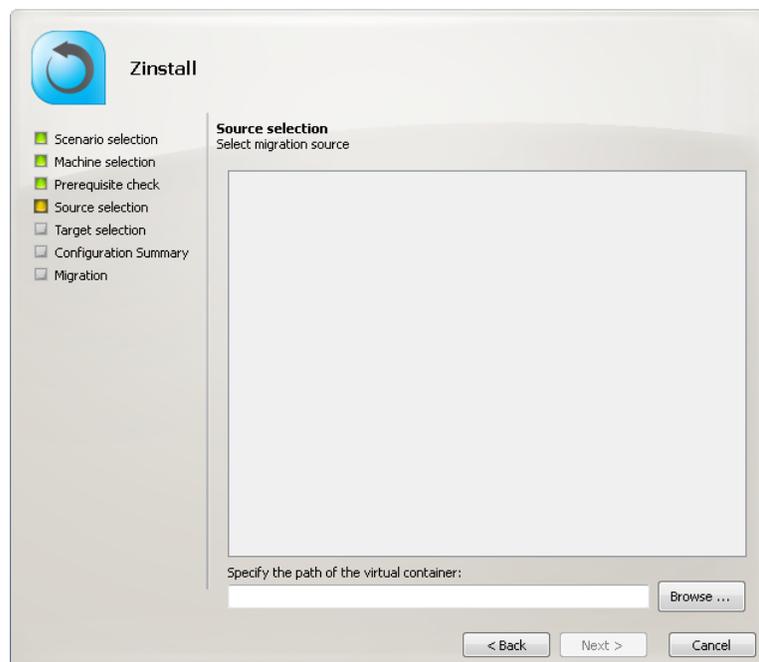
1. ターゲットサーバーでソフトウェアを実行してアクティブ化します。最初にメインの移行画面が表示されます。

4番目のオプション「イメージからサーバに移行」を選択し、「次へ」をクリックします。



2. 「前提条件の確認」画面が表示されます。すべての前提条件が正常に確認されたら、[次へ]をクリックして続行します。それ以外の場合は、見つかった問題に対処し、プロセスを再開します。

3. 次の画面で、このマシンにデプロイするコンテナを参照して見つけ、[次へ]をクリックします。



4.SSDモードオプション画面が表示されます。ハイブリッドSSDストレージのサポートが必要な場合は、詳細についてシナリオ5：SSDモードを参照してください。それ以外の場合は、[次へ]をクリックして続行します。

5. [構成の概要]画面が表示されます。概要を確認し、「実行」ボタンを押して、準備ができたなら移行を開始します。

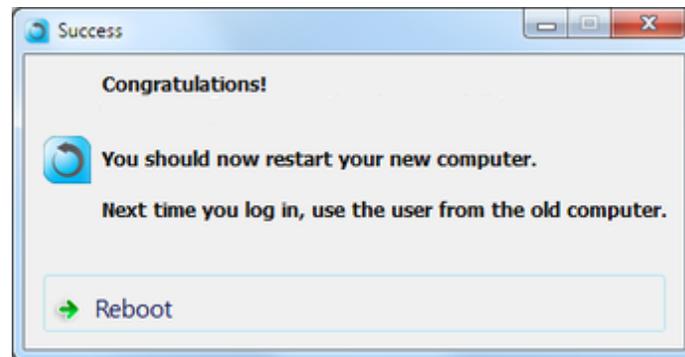
移行プロセス中に、WinServは移行段階がどのように進行するかを示します。これらの段階では、ユーザーの操作は必要ありません。

**重要：**プログレスバーが長時間進まなかったり、サーバのディスプレイが黒くなったりしても、サーバがスタックしているわけではありません。転送プロセス全体に非常に長い時間がかかる場合があります。これは、ネットワーク接続速度のハードドライブの状態と不良セクタ、ハードドライブの速度、全体的なパフォーマンスなど、複数の要因によって異なります。

したがって、進行状況バーに何時間も進行状況が表示されない場合があります。これは正常です。

しばらくして移行先サーバの画面が真っ暗になった場合は、マウスを動かしてオンに戻し、進行状況を確認してください。

辛抱強く、移行プロセス全体が完了するのを待ちます。



新しいサーバに上記のメッセージが表示されたら、移行は完了です。[キャンセル]ボタンを押すと、移行元サーバのソフトウェアも安全に終了できます。

### シナリオ3：壊れたサーバの救出/別のハードドライブからの移行

SOURCE内蔵ハードドライブを移行先サーバに外部接続するには、USBハードドライブエンクロージャー、または適切なアダプター（USB / eSATA / Firewire）が必要です。アダプターは個別に購入できます。

**重要：**ソースハードドライブには、ソースシステム全体が含まれている必要があります。一部のファイルをコピーするだけでは、サードパーティのハードドライブクロー

エ作成ソフトウェア/バックアップ製品を使用して実行した場合でも、移行を実行するには不十分な場合があります。移行前にハードドライブ全体をコピーする必要がある場合は、この目的でZinstallHDD製品を使用することをお勧めします。

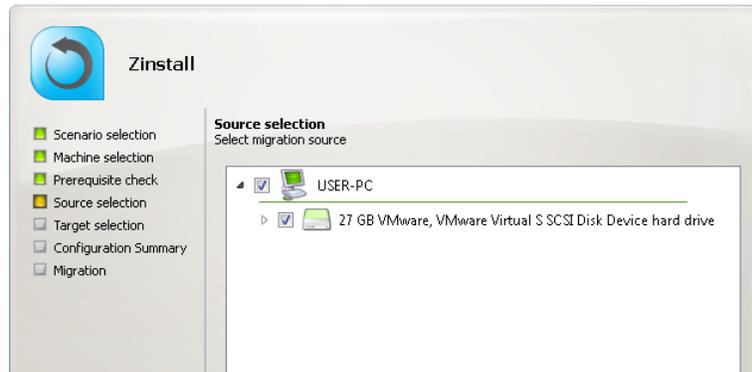
転送を実行するには：

1. 移行元サーバの電源を切ります
2. 移行元サーバからSOURCEハードドライブをマウント解除します
3. SOURCEハードドライブをTARGETサーバーに接続します-内部的に、またはを使用して外部エンクロージャー/アダプター
4. 移行先サーバをオンにして、Windowsを起動します
5. 移行元サーバでソフトウェアを実行してアクティブ化します。最初にメインの移行画面が表示されます。2番目のオプション「古いハードディスクから移行」を選択し、「次へ」をクリックします。



6. 「前提条件の確認」画面が表示されます。すべての前提条件が正常に確認されたら、[次へ]をクリックして続行します。それ以外の場合は、見つかった問題に対処し、プロセスを再開します。

7. 次に、「ソースの選択」画面が表示されます。ソースハードドライブは説明領域にが表示されます。複数のハードドライブが接続されている場合は、リストから適切なソースハードドライブを選択します。

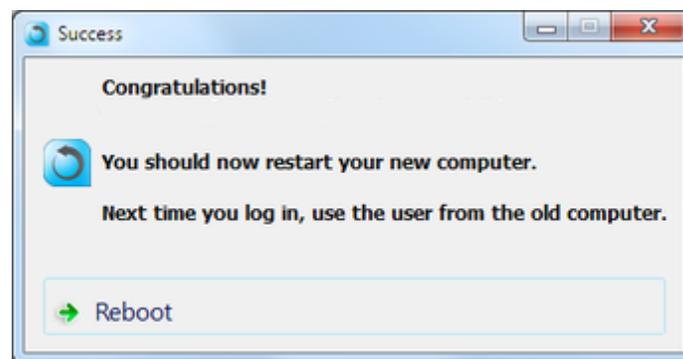


8. ソースの選択が完了したら、[次へ]をクリックして続行します。

9. SSDモードオプション画面が表示されます。ハイブリッドSSDストレージのサポートが必要な場合は、詳細についてシナリオ5：SSDモードを参照してください。それ以外の場合は、[次へ]をクリックして続行します。

10. [構成の概要]画面が表示されます。概要を確認し、「実行」ボタンを押して、準備ができたなら移行を開始します。

**重要：**移行プロセス中に、WinServは、移行段階がどのように進行するかを示します。これらの段階では、ユーザーの操作は必要ありません。プログレスバーが長時間進まなかったり、サーバのディスプレイが黒くなったりしても、サーバがスタックしているわけではありません。移行先サーバの画面が真っ暗になった場合は、マウスを動かしてオンに戻し、進行状況を確認してください。辛抱強く、移行プロセス全体が完了するのを待ちます。



新しいサーバに上記のメッセージが表示されたら、移行は完了です。「再起動」を押してプロセスを終了します。

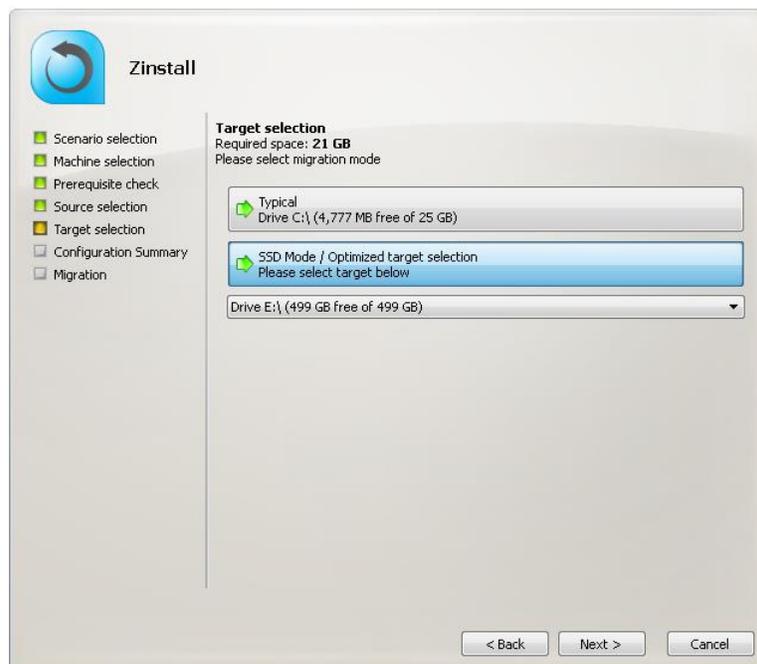
## Additional Options

### SSD mode

移行先サーバにハイブリッドSSD-HDD構成がある場合（例：OSとアプリケーション用のSSDが小さく、データ用のHDDが大きい場合は、専用のSSD移行モードを使用できます。このモードでは、移行されたデータは大きなHDDドライブに配置され、アプリケーション設定とユーザー設定は小さなSSDドライブのOSに統合されます。

このシナリオは、別個のプロセスではありません。むしろ、他の各シナリオでは、ターゲット選択画面の後に、SSDモードを使用するオプションが表示されます。

SSDモードを開始するには、2番目のオプションである「SSDモード/最適化されたターゲットの選択」を選択します。次に、下のドロップダウンリストから大きい方のドライブを選択します。完了したら、[次へ]をクリックして、このガイドの適切なセクションに従って適切な転送シナリオを続行します。



## Transferring profiles, settings and data but NOT applications

すべてのシナリオで、この製品では、アプリケーションを転送せずに、プロファイル、設定、およびデータのみを転送できます。このような転送の例は、アプリケーションがすでにインストールされているが、データと設定が欠落している、企業標準の「ゴールデンイメージ」がすでにあるマシンに移行が実行される場合です。

このシナリオは、別々のプロセスではありません。代わりに、このオプションはすべてのシナリオで使用できます。ターゲットサーバーのメインシナリオ選択画面のスイッチで切り替えます。

プログラムを移行せずに（ただし、プロファイル、設定、およびファイルを移行する場合）移行を実行するには、選択を2番目のオプションである「設定とユーザープロフィールのみ移行」に切り替えます。



このオプションは、上書きモード（3番目の位置）でも使用できます。この場合、新しいサーバーにすでに存在するファイルをコピーすると、そのファイルはソースコピーで上書きされません（通常、上書きは行われません）。

### Selective Migration

上記のすべてのシナリオで、製品は選択的な移行を実行できます。つまり、アプリケーション、設定、ファイルのすべてではなく、ソースシステムの選択された部分のみを転送します。

**重要：**これは高度な構成です。選択ルールを誤って定義すると、移行結果に一貫性がなくなる可能性があります。選択的な移行について確信が持てない場合は、先に進む前にサポートへ連絡してください。

上記のシナリオのいずれかで選択的な移行を実行するには、次のようにします。

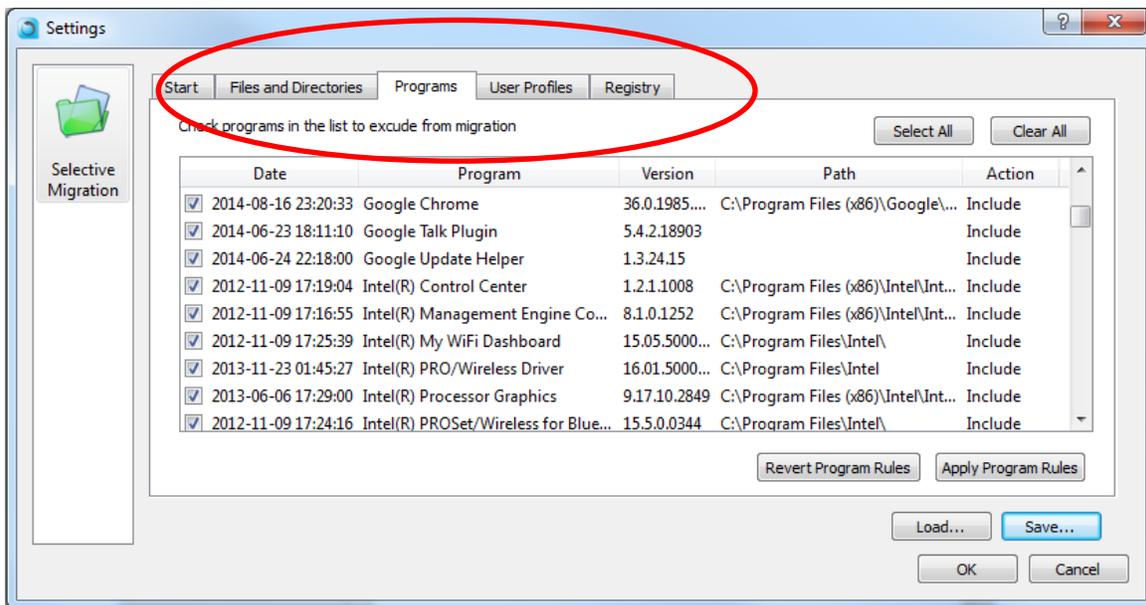
新しいサーバーでの移行構成中に、「高度」ボタンをクリックします。ネットワーク経由で移行する場合は「ソースの選択」画面に表示され、コンテナフォルダから移行する場合は「ターゲットの選択」画面に表示されます。



「設定」メニューが開きます。「高度な設定を使用する場合はこのボタンをクリックします。これには数分かかることがあります」をクリックします。選択的な移行オプションを開始します。  
**注：**このプロセスは完了するまでに時間がかかります。選択リストが表示されるまで待ってから続行します。



3. 初期化が完了すると、選択的移行オプションが4つの個別のタブ（ファイルとディレクトリ、プログラム、ユーザープロファイル、およびレジストリ）で使用できるようになります。以下UIは英語ですが、実際は日本語での表示となります。



ファイルとディレクトリの選択：

[ファイルとディレクトリ]タブで、選択したファイルまたはフォルダーに除外ルールと包含ルールを定義できます。

a.新しいルールを追加するには、右上のパス入力でパスを参照または入力し、左側の[除外/含める]を選択します。次に、「ルールの追加」ボタンをクリックします。

a.パスを手動で入力する場合は、ドライブ文字を含むフルパスを必ず入力してください

b.パスを参照している場合は、左側のコンボボックスで「ディレクトリ」または「ファイル」を切り替え、「ボリューム」という単語の後にコンボボックスから適切なドライブ文字を選択してください。

Use add and remove buttons to define file system migration rules. Click Apply File Rules to approve your changes.

Exclude  Directory  on volume E:\  Type or click Browse...

b.除外ルールは、ファイルまたはフォルダーがターゲットシステムに転送されないことを意味します。タイプ列にチェックボックスがオフになっていて、アクション列に「除外」という単語が表示されます。ルールを含めるに切り替えるには、左側のチェックボックスをクリックするだけです。

例：フォルダ「E:\temp」を除外すると、「E:\temp」とそのすべてのコンテンツが転送されないことを意味します（他のすべては転送されます）。

c.インクルードルールは、親フォルダーが除外されている場合でも、ファイルまたはフォルダーがターゲットシステムに転送されることを意味します。[タイプ]列にチェックボックスがオンになっていて、[アクション]列に「含める」という単語が表示されます。ルールを除外に切り替えるには、左側のチェックボックスをクリックするだけです。

Type	Path	Action
<input type="checkbox"/> Direct...	E:\Temp\	Exclude
<input checked="" type="checkbox"/> Direct...	E:\Temp\Subfolder	Include

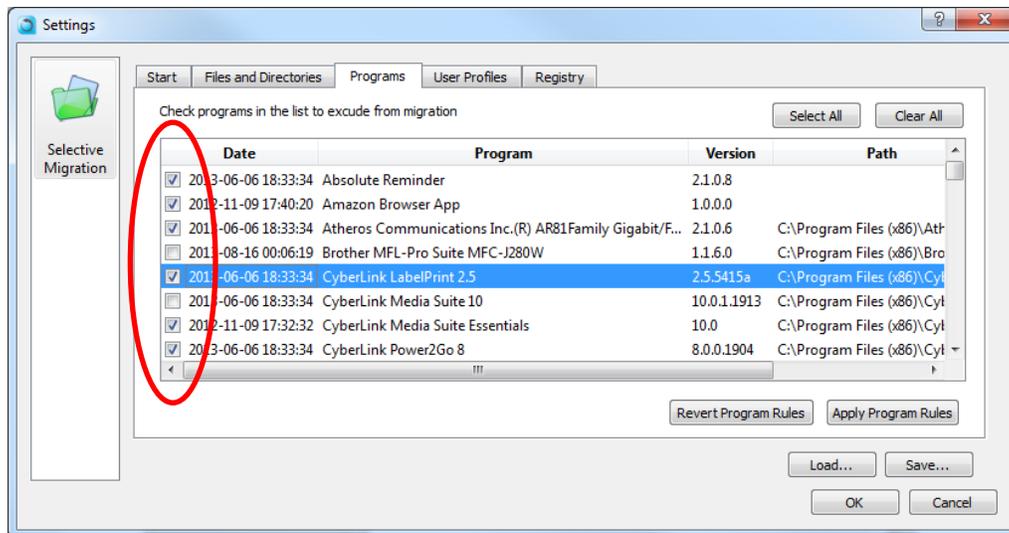
## 5.プログラムの選択：

[プログラム]タブでは、プログラムがターゲットシステムに転送されないようにすることができます。

a.デフォルトでは、すべてのプログラムは左側にチェックマークが付いています。これは、すべてのプログラムがターゲットシステムに転送されることを意味します。プログラムを転送せずに開始したい場合は、「すべてクリア」ボタンをクリックして変更することもできます。

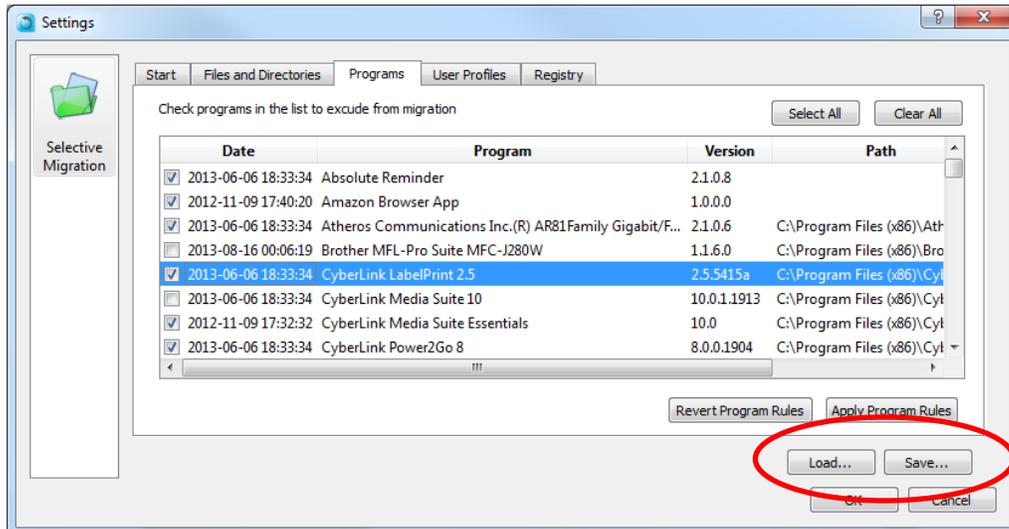
b.各プログラムの説明の左側にあるチェックマークをクリックすると、ターゲットシステムに転送するかどうかを切り替えることができます。

b.ファイルへのパスが不明なプログラムのチェックを外すと、そのパスを指定するように求められます。ファイルが保存されている場所がわからない場合は、そのプロンプトをキャンセルしてください。このような場合、一部のファイルは転送される可能性がありますが、プログラムは引き続きターゲットシステムから除外されます。



6.いつでも、「保存...」ボタンを押すことにより、現在のルールを構成ファイルに保存できます。その後、定義したルールを後でロードするか、この移行を再度実行することにした場合にロードできます。

移行を開始する前に、ルールを保存することを強くお勧めします。



7.必要に応じてルールを定義したら、[OK]ボタンをクリックして[ソースの選択]画面に戻り、移行プロセスを続行します。

### Command Line Execution

WinServは、手動でGUIを選択する代わりに、コマンドラインインターフェイスから実行することもできます。一般的なコマンドラインフラグ：

```
--serial=<serial_number>    Specify the Serial Number, without dashes or spaces.

--email=<email_address>     Specify the email address (use if support is contact required).

--eula=yes                   Confirm acceptance of EULA.

--method=[m2c|c2m]          Scenario type.
                             m2c: Machine to container
                             c2m: Container to machine

--container=<full_path_where_to_create_container>:
                             Full path where the container will be created (m2c), or path to existing source container (c2m). Expected to exist and be accessible.

--enablelog=yes             Create a short text log in the execution path.
```

### ルールフラグを除外します。

Machine-to-Containerモードは修飾子を除外します：

これらを使用して、一部のコンテンツがコンテナにキャプチャされないようにします。m2cモードでのみ有効です。

```
--m2cignoreotherprofiles=yes
                             Only capture the current user profile folder (skip other user profile folders).

--m2c_rules=<full_path_to_folder_exclude_rules_file>
                             Path to a file specifying a list of folder / file paths to exclude from the container.
                             One entry per line.
                             Can be exact paths or wildcard paths.
```

Container-to-Machineモードは修飾子を除外します：

これらを使用して、一部のコンテンツがマシンにデプロイされないようにします。  
c2mモードでのみ有効です。

```
--c2mignoreotherprofiles=yes
```

```
                Only deploy the current user profile
--c2mignoreotherprofiles=yes    (skip other user profiles).
```

```
--c2m_program_rules=<full_path_to_program_exclude_rules_file>
```

```
                Path to a file specifying a list of programs
                to exclude from container deployment.
                One entry per line.
                Should use wildcards unless the name is full
                and exact.
```

### Examples - general:

マシンをコンテナに移行するには：

```
zinstall_winserv.exe --serial=<serial_number> --email=<email_address>
--eula=yes --method=m2c
--container=<full_path_where_to_create_container> --enablelog=yes
```

```
zinstall_winserv.exe --serial=AAAABBBBCCCCDDDEEEFFFFFFGGGGHHHHJJ
--email=it@example.com --eula=yes --method=m2c
--container=c:\temp\container.vmdk --enablelog=yes
```

コンテナからマシンに移行するには：

```
zinstall_winserv.exe --serial=<serial_number> --
email=<email_address> --eula=yes --method=c2m
--container=<full_path_where_to_create_container> --enablelog=yes
```

```
zinstall_winserv.exe --serial=AAAABBBBCCCCDDDEEEFFFFFFGGGGHHHHJJ
--email=it@example.com --eula=yes --method=c2m
--container=c:\temp\container.vmdk --enablelog=yes
```

製品をインタラクティブモード（GUIウィザード）で実行するには、シリアル番号を自動的に入力してEULAに同意します。

```
zinstall_winserv.exe --serial=<serial_number> --
email=<email_address> --eula=yes
```

```
zinstall_winserv.exe --serial=AAAABBBBCCCCDDDEEEFFFFFFGGGGHHHHJJ
--email=it@example.com --eula=yes
```

**Examples – selective migration:**

フォルダのセットリストを除いて、マシンをコンテナに移行するには：

```
zinstall_winserv.exe --serial=AAAABBBBCCCCDDDDDEEEEEFFFFFFGGGGHHHHJJ  
--email=it@example.com --eula=yes --method=m2c  
--container=c:\temp\container.vmdk --enablelog=yes  
--m2c_rules=c:\temp\container-excludes.txt
```

container-excludes.txtファイルは次のようになります。

```
C:\ESD  
C:\temp  
C:\Databases\*\Logs <- This is a wildcard matching C:\Databases\DB1\Log,  
C:\Databases\DB2\Log and so on
```

マシンをコンテナに移行するには、フォルダのセットリストを除外し、現在ログインしているユーザーを除く他のすべてのユーザープロファイルフォルダを除外します。

```
zinstall_winserv.exe --serial=AAAABBBBCCCCDDDDDEEEEEFFFFFFGGGGHHHHJJ  
--email=it@example.com --eula=yes --method=m2c  
--container=c:\temp\container.vmdk --enablelog=yes  
--m2c_rules=c:\temp\programs-excludes.txt  
--m2cignoreotherprofiles=yes
```

プログラムのセットリストを除いて、コンテナからマシンに移行するには：

```
zinstall_winserv.exe --serial=AAAABBBBCCCCDDDDDEEEEEFFFFGGGGHHHHJJ  
--email=it@example.com --eula=yes --method=c2m  
--container=c:\temp\container.vmdk --enablelog=yes  
--c2m_rules=c:\temp\programs-excludes.txt
```

programs-excludes.txtファイルは次のようになります。

```
*Office*2013*    <- This excludes Microsoft Office Professional 2013 Click-to-Run,  
                  Microsoft Office Home 2013 and so on.  
*iTunes*         <- This excludes iTunes. Make sure to put wildcards before and after, to  
                  match other parts of a typical name, such as a specific version number.
```

プログラムのセットリストを除外し、現在ログインしているユーザーを除く他のすべてのユーザープロファイルを除外して、マシンをコンテナに移行するには、次の手順に従います。

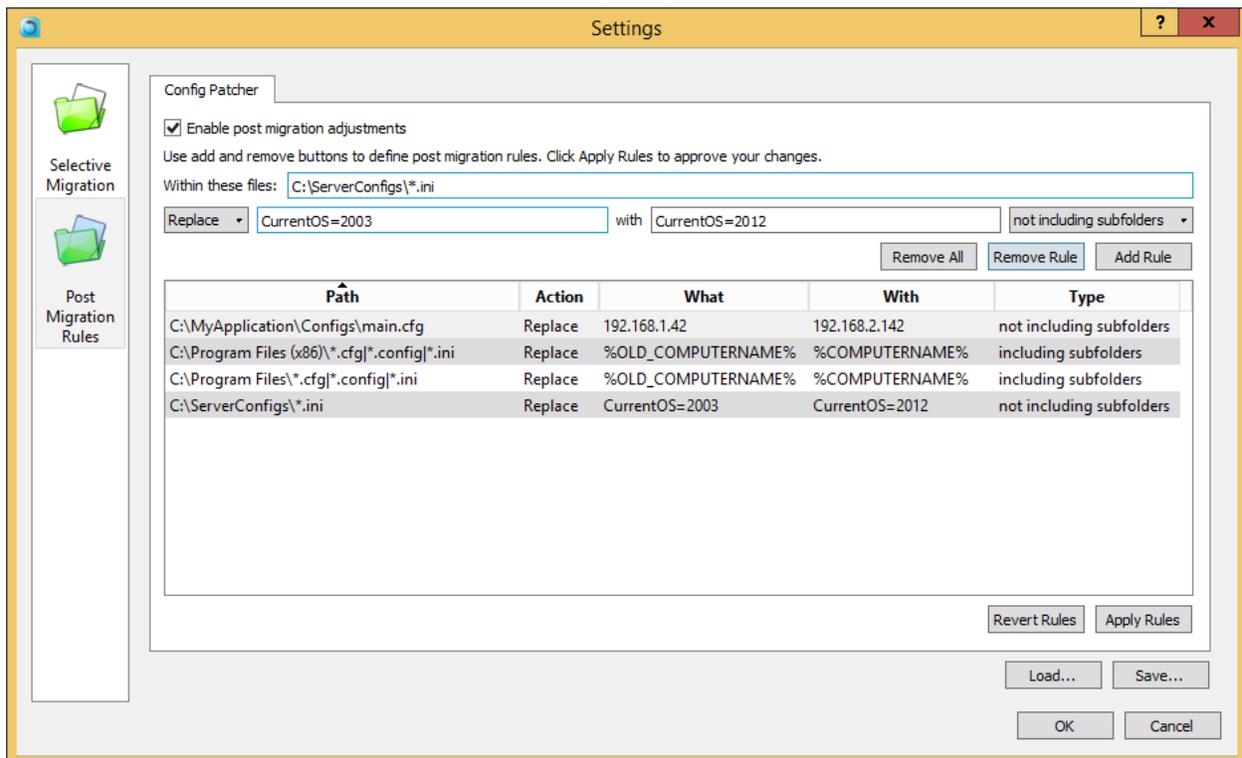
```
zinstall_winserv.exe --serial=AAAABBBBCCCCDDDDDEEEEEFFFFGGGGHHHHJJ  
--email=it@example.com --eula=yes --method=c2m  
--container=c:\temp\container.vmdk --enablelog=yes  
--c2m_rules=c:\temp\programs-excludes.txt  
--c2mignoreotherprofiles=yes
```

### Post-migration adjustment rules

移行自体の構成に加えて、移行後の調整を定義できます。これらは、選択したファイルの文字列置換に関する特別なルールです。たとえば、古いサーバー名を新しいサーバー名に変更したり、古いサーバーのIPアドレスを新しいIPアドレスに変更したりして、構成ファイルを調整するルールを設定できます。

移行後のルール画面にアクセスするには、ターゲットの[詳細設定]メニューを開き、そこにある[移行後のルール]タブに移動します。

「移行後の調整を有効にする」をクリックして、そこにルールを追加できるようにします。



調整するファイルまたはフォルダのパス、置き換える文字列、および何に置き換えるかを定義できます。

置き換えるパスを定義するときは、フルパス（C:\...などのドライブ文字で始まる）にする必要があります。ファイル名（単一ファイルの場合）、または複数ファイル/複数フォルダのマスクで終わる必要があります。例えば、

C:\ServerConfigs\\*.ini will match all files with extension .ini in the folder  
ServerConfigs (and its subfolders if enabled)

C:\ServerConfigs\\*.\* will match all files in the folder ServerConfigs – we do not recommend doing this since this could match a lot of files, especially in folders such as Program Files, and lead to a long execution time

C:\ServerConfigs\\*.ini|\*.cfg|\*.conf will match all files with extension either .ini or .cfg or .conf

一般的な文字列に加えて、次の特別な文字列を使用できます。

COMPUTERNAME

WINDIR

PROGRAM\_FILES

PROGRAM\_FILES\_X86

COMMON\_APPDATA

そして、これらの文字列は古いサーバーの環境を使用します。

OLD\_COMPUTERNAME

OLD\_WINDIR

OLD\_PROGRAM\_FILES

OLD\_PROGRAM\_FILES\_X86

OLD\_COMMON\_APPDATA

ユーザーインターフェイスにルールを追加するだけでなく、ルールをファイルに保存することもできます ([保存]ボタンを使用)。そのファイルがWinServ実行可能ファイルと同じフォルダーに配置されている場合、それらのルールは自動的に追加され、さまざまな移行実行でこれらのルールを複製するために使用できます。

または、[ロード]ボタンを使用してルールファイルを手動でロードすることもできます。

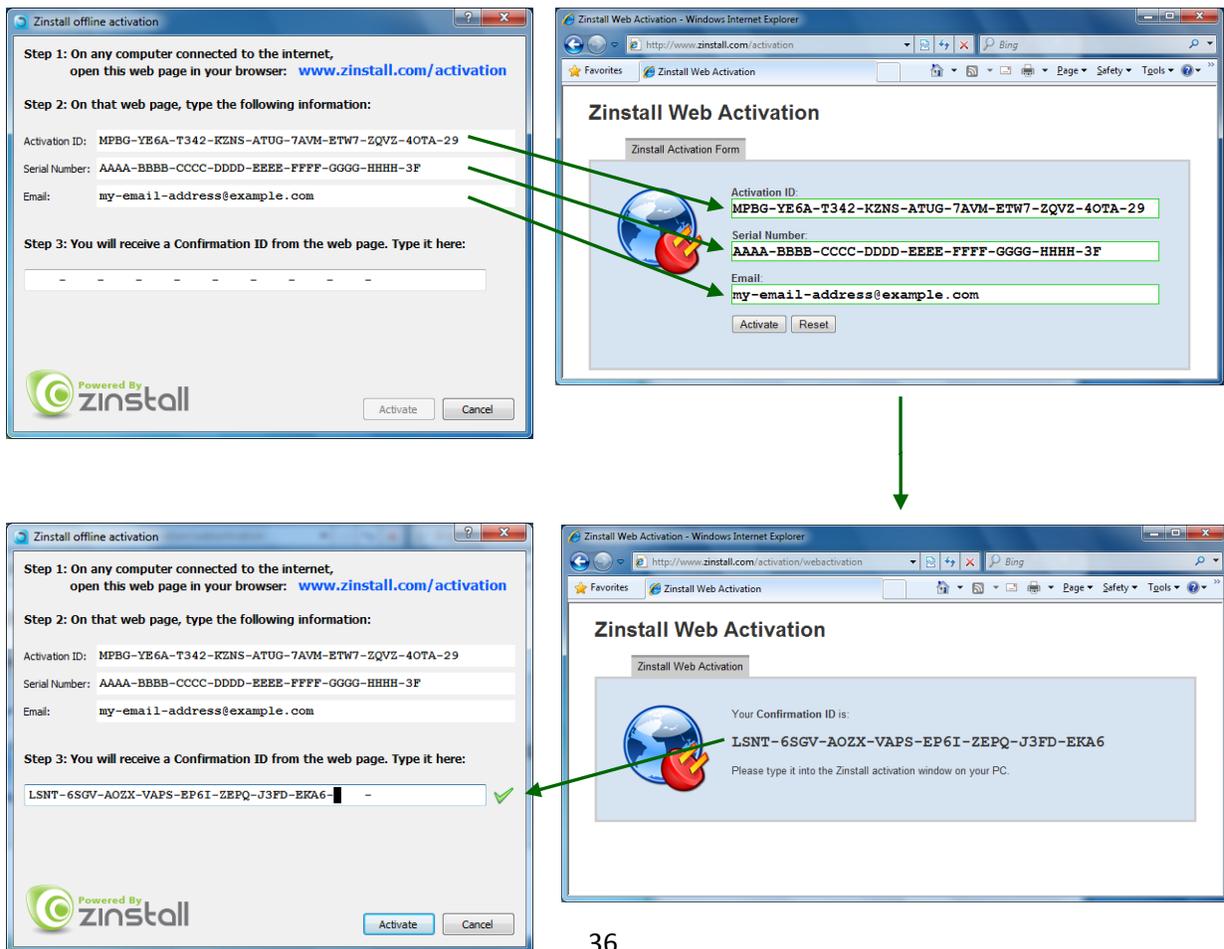
付録A

## Appendix A

### Web Activation

サーバーがインターネットに接続されていない場合、WinServはそれ自体を自動的にアクティブ化できません。この場合、WinServは、Webアクティベーションを手動で実行するように要求します。

1. インターネットに接続されているサーバーで、ブラウザ（Internet Explorer など）を開きます。
2. [www.zinstall.com/activation](http://www.zinstall.com/activation) にアクセスします-これにどのサーバーを使用するかは関係ありません。電話を使用することもできます。
3. ブラウザのWebアクティベーションフォームで、実行中のWinServ ウィンドウに表示されるアクティベーションID、シリアル番号、および電子メールを入力します。
4. ブラウザで[アクティブ化]をクリックします。
5. Webアクティベーションフォームに確認IDが表示されます。
6. 実行中のWinServウィンドウにこの確認IDを入力します。
7. 実行中のWinServウィンドウで[アクティブ化]をクリックします。



## CHKDSK

Windows CHKDSKハードドライブの整合性チェックを実行し、考えられるエラーを修正するには、次の手順を実行します。

1. スタートメニューを開き、次に「マイサーバー」を開きます
2. ハードドライブを右クリックし、[プロパティ]を選択します
3. [ツール]タブに移動します
4. [エラーチェック]ボックスで、[今すぐチェック]をクリックします
5. 「ファイルシステムエラーを自動的に修正する」と「不良セクタをスキャンして回復を試みる」の両方のオプションがチェックされていることを確認します。
6. [開始]をクリックします
7. 再起動するように求められたら、受け入れます。

複数のハードドライブがある場合は、それぞれに対してCHKDSKを実行する必要があります。

## Converting a FAT32 drive to NTFS file system

SOURCEサーバー上の一部のドライブがFAT32ファイルシステムを使用している場合は、信頼性の高い転送を保証するために、それらをNTFSファイルシステムに変換する必要があります。FAT32パーティションごとに次の手順を実行します。

1. [スタート]メニュー->[すべてのプログラム]->[アクセサリ]->[コマンドプロンプト]に移動して、コマンドプロンプトを開きます。
2. コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力し、Enterキーを押します。  
変換c: /FS:NTFS
3. 「ボリュームラベル」を提供するように求められた場合は、マイサーバーに表示されるドライブのラベルを入力します。たとえば、マイサーバーに「ドライブC:[マイドライブ]」がある場合は、「マイドライブ」と入力する必要があります。
4. 「使用中のボリューム、強制しますか？」に関する質問に「はい」と答えます。
5. 「システムボリューム、次の起動のスケジュール」に関する質問に「はい」と答えます。
6. サーバーを再起動します
7. Windowsが起動し始めたら、ディスクチェックを実行します（「ファイルシステムのタイプはFATです。ディスクチェックをキャンセルするには、任意のキーを押してください」というメッセージが表示されます。この段階では、どのキーも押さないでください）。
8. ディスクチェックが完了すると、NTFSへの変換が開始されます。これには時間がかかる場合があります。終了するのを待ちます。

## Troubleshooting Guide

### Message Codes

Message Code	Troubleshooting instructions
10	<p><b>A currently running application is preventing Zinstall from operating properly.</b>            サーバーで実行されているすべてのアプリケーションを閉じて、ZinstallWinServを再度実行します。どのアプリケーションを閉じるかわからない場合は、サーバーを再起動してWinServを再度実行してください。</p>
11	<p><b>No activations remaining</b>            ライセンスがアクティブ化されているサーバーが多すぎるため、それ以上のサーバーでアクティブ化することはできません。別のライセンスが必要です。</p>
13	<p><b>You are trying to activate the wrong product with your serial number / Anti Virus or Firewall blocking Zinstall from loading</b>            1.使用しているシリアル番号が、アクティベーションしようとしている製品に適合していることを確認してください。たとえば、Zinstall WinWinをアクティブ化する場合は、WinWinシリアルを使用していることを確認してください。            2.ウイルス対策とファイアウォールがアンインストールされているか、完全に無効になっていることを確認します。</p>
122	<p><b>In-place upgrade attempt without a Windows.old folder</b>            「インプレースアップグレード」シナリオを選択しましたが、Windowsには古いWindows.oldアーカイブがありません。Windows.oldがなければ、移行元はありません。以前に元のWindowsのコンテナを作成したことがある場合は、「コンテナからマシンへの移行」シナリオを使用して続行する必要があります。</p>
190	<p><b>Critical Windows service is corrupted on your server</b>            このメッセージコードは、必須の標準Windowsコンポーネント（WMI）が誤動作しているか破損している場合に表示されます。このような誤動作/破損したコンポーネントはWinServの一部ではありませんが、Windowsインストール内でWinServを適切に実行できるようにするには、修正する必要があります。このメッセージが表示されると、誤動作しているコンポーネントの名前に関する詳細情報と、トラブルシューティングに使用できる障害コードも含まれています。</p> <p>回避策：            WMIの問題自体を修正できない場合は、USB外付けハードドライブを使用してWMIをバイパスし、回避策の移行を実行できます。方法は次のとおりです。            1. OLDサーバーで、次のリンクからMicrosoftDisk2vhdユーティリティをダウンロードします。</p>

	<p><a href="http://www.zinstall.com/sto/support/disk2vhd.exe">http://www.zinstall.com/sto/support/disk2vhd.exe</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. OLDサーバーで、ダウンロードしたdisk2vhdを実行します。</li> <li>3. ドライブリストで、C：ドライブのみを選択します。</li> <li>4. 上部の場所で、[参照]をクリックして、外付けUSBドライブを選択します。</li> <li>5. disk2vhdキャプチャを開始します。これにより、USBドライブに大きなコンテナファイルが作成されます。</li> <li>6. USBドライブを新しいサーバーに移動します。</li> <li>7. 新しいサーバーで、WinServを実行し、次のシナリオを選択します。 「マシンからコンテナへの移動」。</li> </ol> <p>10. [ソースの選択]で、USBドライブにあるコンテナを参照して選択します（右側のファイルタイプを変更して表示できるようにします）。</p> <p>11. 移行を開始するまで、[次へ]をクリックします。</p>
<p><b>252</b></p>	<p><b>The network connection between your servers has been disconnected during the migration.</b></p> <p>これは次の原因で発生する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソースサーバーのネットワークアダプターに障害があります</li> <li>• コピーされた大量のデータの処理に失敗したために、移行中に障害が発生したネットワークスイッチの障害</li> <li>• ネットワークトラフィックを妨害するファイアウォール/ウイルス対策/セキュリティソフトウェア。</li> </ul> <p><b>Troubleshooting:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネットワークケーブルとアダプタが物理的に正しく接続されていることを確認します。</li> <li>2. SOURCEサーバーとTARGETサーバーの両方がオンラインであり、オフ/休止状態になっていないことを確認します</li> <li>3. SOURCEサーバーまたはTARGETサーバーのいずれかにファイアウォール/ウイルス対策/セキュリティソフトウェアがインストール/実行されていないことを確認します</li> <li>4. 直接ケーブル接続を使用している場合は、代わりにルーター接続を使用してください。</li> <li>5. ルーター接続を使用している場合は、代わりに直接ケーブル接続を使用してください</li> <li>6. 移行を再開する前に、両方のサーバー上のすべてのプログラムを閉じます</li> </ol> <p>問題が解決しない場合、推奨される解決策は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハードドライブをSOURCEサーバーから取り外し、TARGETサーバーに接続します。</li> <li>2. そのハードドライブを移行ソースとして使用して移行を実行します（詳細な手順については、ユーザーガイドを参照してください）。</li> </ol>
<p><b>254</b></p>	<p><b>VSS issue</b></p> <p>ボリュームシャドウコピーサービス（VSS）は、ボリュームのスナップショットを作成して一貫した方法でコピーできるようにするWindowsコンポーネントです。詳細については、<b>ボリュームシャドウコピーサービスの概要</b>を参照してください。</p> <p>WinServは、すべてのディスクの一貫したコピーを作成するために、ソースサーバーでVSSを使用します。</p>

	<p>VSSに問題が発生した場合でも、WinServは移行を実行できますが、移行中にソースサーバーでファイルシステムやレジストリアクティビティが発生すると、移行の後の段階で問題が発生する可能性があります。WinServがVSSに関する警告を表示した場合は、後で問題が発生する可能性を低くするためにソースサーバー上のすべてのアプリケーションを閉じるか、次のガイドに従って、移行プロセスを続行する前にVSSの問題を解決してください。</p> <p>VSSの問題を解決する方法は？</p> <p>1. SOURCEサーバーで、vshadowユーティリティを次の場所からダウンロードします。  <a href="http://www.zinstall.com/sto/tools/vshadow.exe">http://www.zinstall.com/sto/tools/vshadow.exe</a></p> <p>2. コマンドプロンプトを開き、ソースサーバー上のボリュームごとに「vshadowx:」を実行します。「x」はボリュームのドライブ文字です。例えば：  「vshadowc:」</p> <p>これにより、大量のテキストが印刷されるはずです。</p> <p>3. VSSが正常に機能している場合、出力は「スナップショットの作成が完了しました」という行で終了する必要があります。</p> <p>4. VSSの問題がまだ存在する場合、出力は詳細な問題の説明とエラーコードで終了します。</p> <p>5. この問題の説明とエラーコードを使用して、Microsoftのサポートに連絡するか、利用可能なナレッジベースとインターネットソースを使用して解決策を見つけてください。</p> <p>VSSが機能するようになったら、移行を再度実行します。</p>
<p>262</p>	<p><b>General error</b>  <b>Troubleshooting:</b></p> <p>1. SOURCEサーバーのハードドライブでCHKDSK（ハードドライブの整合性チェック）を実行します</p> <p>2. ファイアウォール/ウイルス対策/セキュリティソフトウェアがインストール/実行されていないことを確認します</p> <p>3. SOURCEサーバーとTARGETサーバーの両方を再起動します</p> <p>4. 次に、移行を再度実行します</p>
<p>298</p>	<p><b>One or more of the partitions on the server's hard drive are formatted using the FAT32 file system</b></p> <p>信頼性の高い転送を行うには、FAT32パーティションをNTFSファイルシステムにアップグレードする必要があります。</p> <p>トラブルシューティング：  表示されたメッセージに記載されているパーティションごとに、次の手順を実行してください。</p> <p>1. [スタート]メニュー-&gt;[すべてのプログラム]-&gt;[アクセサリ]-&gt;[コマンドプロンプト]に移動して、コマンドプロンプトを開きます。</p> <p>2. コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力し、Enterキーを押します。  変換c:/FS:NTFS</p> <p>3. 「ボリュームラベル」の提供を求められた場合は、ドライブのラベルを次のように入力します。</p>

	<p>マイサーバー。たとえば、マイサーバーに「ドライブC:[マイドライブ]」がある場合は、「マイドライブ」と入力する必要があります。</p> <p>4.「使用中のボリューム、強制しますか?」に関する質問に「はい」と答えます。  5.「システムボリューム、次の起動のスケジュール」に関する質問に「はい」と答えます。  6.サーバーを再起動します  7.Windowsが起動し始めたら、ディスクチェックを実行します（「ファイルシステムのタイプはFATです。ディスクチェックをキャンセルするには、任意のキーを押してください」というメッセージが表示されます。この段階では、どのキーも押さないでください）。  8.ディスクチェックが完了すると、NTFSへの変換が開始されます。これには時間がかかる場合があります。完了するまでお待ちください  9.変換が完了すると、Windowsはもう一度自動的に再起動します。  これで、ファイルシステムがNTFSにアップグレードされました。</p>
<b>328</b>	<p><b>VSS warning</b></p> <p>トラブルシューティングについては、メッセージ254（上記）を参照してください。</p>
<b>375</b>	<p><b>Migration from 64 bit to 32 bit is not allowed for this system</b></p> <p>ソースOSは64ビットですが、ターゲットは32ビットです。転送を完了するには、ターゲットWindowsを64ビットにアップグレードします。次に、WinServを再度実行します。</p>
<b>467</b> <b>469</b>	<p><b>Source hard drive or storage location has disconnected during the migration</b></p> <p>移行プロセス中に、ソースハードドライブ（またはソースストレージの場所）がターゲットサーバーから切断されました。これは、ソースのデータが大幅に破損していて、データが読み取られない場合にも発生する可能性があります。</p> <p>解決する手順：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-ソースドライブがターゲットサーバーに安全に接続されていることを確認します</li> <li>-ソースドライブでCHKDSKを実行します（上記の付録を参照）。</li> <li>-サーバーを再起動します</li> </ul> <p>次に、WinServを再度実行します。</p>
<b>471</b> <b>472</b>	<p><b>Source server has disconnected</b></p> <p>移行プロセス中に移行ソースが切断されました。  このエラーは、ソースサーバーのハードドライブの破損の問題が原因である可能性もあります。両方のサーバーを再起動し、ネットワークケーブルが正しく接続されていることを確認します。不安定なワイヤレスネットワークなど、低品質の接続を避けることを強くお勧めします。考えられるハードドライブの破損を修正するには、ソースドライブでCHKDSKを実行します（上記の付録を参照）。</p>
<b>481</b>	<p><b>SSD mode initiated, but no secondary drive is available</b></p>

	<p>ソースコンピューターで複数のドライブを選択し、SSDモードを開始しようとした可能性があります。ソース選択でCドライブのみを選択するようにしてください。そうすれば、ターゲット選択でSSDモードを開始できます。</p>
--	--

## After the Migration

### Software activation

場合によっては、サードパーティベンダーは、システムのコンポーネントが変更されたと判断したときに、ソフトウェアの再アクティブ化を要求します。この点に関するベンダーポリシーはさまざまであり、変更されたハードウェアコンポーネントの数と数、使用されているソフトウェアの特定のエディションなど、いくつかの要因によって異なります。

ほとんどの場合、ソフトウェアの再アクティブ化は、ソフトウェア自体を介して（再アクティブ化するように求められた場合）、またはベンダーのWebサイトを介してオンラインで実行できます。

### Incompatible applications

ZinstallWinServを使用して古いバージョンのWindowsServerから新しいバージョンに転送する場合

（2003年から2012年など）、または32ビットと64ビットのシステム間では、一部のアプリケーションがTARGETシステムと本質的に互換性がない場合があります。たとえば、32ビットドライバを使用するアプリケーションは、64ビットシステムでは「すぐに使用できる」状態では実行されません。

このようなアプリケーションに遭遇した場合は、ソフトウェアベンダーに連絡して、TARGETシステムと互換性のある別のバージョンのソフトウェアがあるかどうか、および非互換性を修正する方法を確認する必要があります。または、Windowsに組み込まれている「互換モード」設定（アプリケーションを右クリックして[プロパティ]を選択することで構成可能）を使用して、一部のアプリケーションを実行することもできます。

移行の主な関心事がレガシー/互換性のないアプリケーションの使用を継続することである場合は、WinServを使用してP2V移行を実行することを検討してください。

### Applications using an SQL server database

まれに、SQL Serverデータベースエンジンの場合、転送後にそのようなアプリケーションが正しく機能しないことがあります。

この問題を手動で解決するには、SQLServerサービスを「SYSTEM」ユーザーとして起動するようにマークします。

または、「コントロールパネル」->「プログラムの追加と削除」に移動し、必要なアプリケーションの「修復」を選択します。